

共にしあわせ産みだす党 日本共産党 市議団ニュース

第2082号 2023年11月19日

日本共産党 根室市議団

根室市宝林町4-203 TEL0153-23-6023



この年齢構成は3年前の調査に無い項目のため比較出来ませんが、介護職員側の高齢化がさらに進んでいるのではないかと想像しています。若い世代が介護現場に参入していける状況を作らなければ、いま働いている職員が定年等でリタイアした後は人手不足がさらに深刻になります。

市内の介護スタッフ「不足」が拡大 第9期介護保険事業計画に関するアンケート調査

根室市は2024年度からの「第9期介護保険事業計画」の策定作業を進めています。その中で、市が実施した家族介護者や事業者等へのアンケート調査では、市内のサービスや介護従事者の不足の状況が示されていました。

職員数の「不足」が拡大

事業所に対するアンケートでは職員が計57名が不足していると回答。回答した事業所数が多かった3年前の調査(34名不足)よりも増加しています。特にヘルパーは13名の不足で、ニーズに追いついていない状況が伺えます。

介護職員の側も高齢化している

アンケート調査に回答した32事業所で働く正職員数は239名。そのうち40歳未満は全体の32.3%に過ぎません。また60歳代の職員も13.8%になります。なお40歳未満のケアマネージャーは1名のみでした。

また正規職員以外の職員の内訳では70歳以上の方は全体数196名のうち27名(13.7%)が就労しています。



11月11日の「介護の日」にあわせて一週間の間、毎朝、道東勤医協ねむろ医院の職員さん方が、「介護保険制度の抜本的な改善を求める」アピール行動を行いました。それぞれ「人手不足は深刻です」「介護の仕事をして根室の介護を支えませんか」等のプラカードを手に街頭に立ち、通勤・通学する市民らにアピールしました。

市内で不足しているサービス

またアンケートでは市内で不足している在宅介護サービスについて、訪問入浴、訪問介護、短期入所生活介護が上位を占めます。これは前回調査と同様の結果ですが実態は深刻化しています。訪問入浴は利用休止が続き、ヘルパーは新規利用が大変に困難です。またショートステイも現在受け入れ可能な施設は一事業所だけです。

そのほか医療系サービスは、訪問看護、訪問リハビリ、訪問診療について前回調査と同様に高い水準で不足していると回答されています。地域包括ケアシステムが提唱されてから随分と経ちますが、在宅医療を提供する基盤は依然として全般的に少ない地域事情を反映しているものと思います。

光洋中学校が「防災フェスティバル」を開催 全校生徒と地域の方々と一緒に防災対策を学びました



11月3日、根室市立光洋中学校は、避難所開設を想定した全校一斉の防災学習を実施しました。同校では毎年このような大規模な防災学習を行っており、またコミュニケーションの取り組みとして地域の町内会などの方々も参加されました。



生徒は避難所設置(ダンボールベッドの組み立て等)や、救急手当の実習、非常食の調理、実食と図面上の避難訓練、自衛隊の災害救助装備品展示など多彩なメニューを体験していました。また「リアルはぐ」という、地域の方々や避難者役になり、生徒がその避難者を受け、避難所に誘導する訓練も行われました。市危機管理課によると、このほか市内の各学校でも学年ごとの宿泊研修をはじめ、いろいろな形での「防災学習」が継続的に行われているとのこと。

今年は学校の

結露が大変に

9月の市議会決算委員会で北斗小学校では天井の結露から水滴が落ち、廊下が濡れていたという説明がありました。水たまりみたいになると子ども達も滑って危険です。

市教委によると、今年の夏は湿度が高く、市内の各学校でも結露に悩まされてきました。大型扇風機の設置や換気、また児童・生徒みんなで雑巾がけを行うなど対応に追われていたようです。ある学校関係者は全館にエアコンを設置して除湿するしかないのでは、とも話していました。

あまりに酷い場所に対しては、吸水性や速乾性に優れたフロアマットを廊下に設置する等の対応をしてはどうかな、とインターネット記事を読みながらぼんやりと思いました。



※老老介護の中でも、認知症の要介護者を認知症の介護者が介護していることを認知介護といいます。事故が起きやすい危険な介護状況の一つです。(有料老人ホーム「イリーゼ」のホームページより引用)